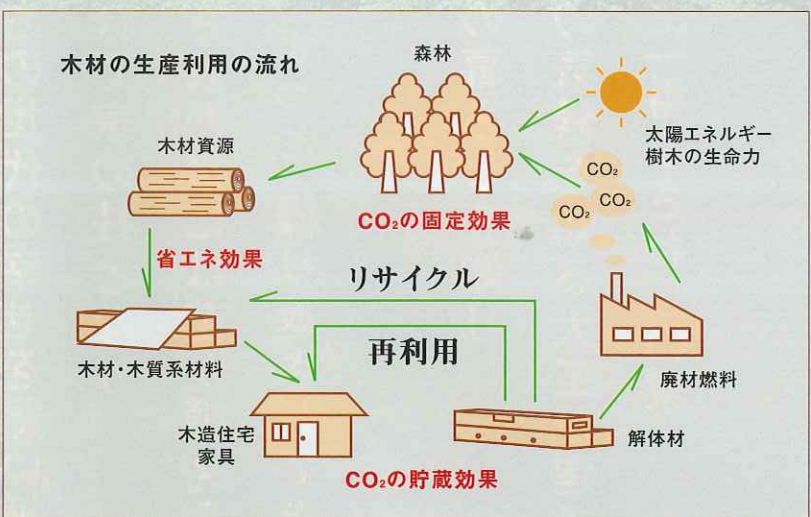


木の家は、21世紀のスタンダード

自然と人にやさしい木造住宅

環境との共生が求められる今、木造住宅の良さが注目されています。耐久年数の長い木の家を建て、建て直す場合も分別解体して再利用する。その間に木は生長し、豊かな自然を保ちながら次の木材を提供する循環が生み出されるのです。



木は地球にやさしい

日本は国土の7割を森林が占める世界有数の「森の国」。木の香りは、それだけで心が癒されます。さらに、木材は鉄などの建築資材のように作り出す際に石油などの化石燃料を使わず、再利用も可能で、地球温暖化につながるCO₂の削減に貢献できます。木そのものも二酸化炭素を吸収して内部にそのまま貯蔵するうえ、最終的に焼却燃料としても活用でき土に還るなど、環境への負荷が小さい資源です。



日本で木造住宅を建てる意味

人類は自然環境から身を守るため、石や土、草木など、その土地の身近な



材料を生かしながら、低コストで快適な住まいを作ってきました。四季がはっきりしている日本では「木の家」が発展。木は湿気を吸い、乾燥する時期には吐き出す調湿作用があり、高温多湿な日本の風土の中で家屋の結露や湿気を抑えてきました。合成樹脂や接着剤で固めた建材には湿気を調整する作用がほとんどないので、昔ながらの柱や梁を組んで建てる木造住宅に注目が集まっているのです。

森林浴効果でリラックス

木材と土壁による伝統的な木の家は風通しが良く、夏が涼しく過こせ、家にも暮らす人の健康にもプラスに働きます。現代では気密性の高い住宅になり冬も快適ですが、建材の化学物質の影響が心配されています。

そこで注目したいのが、木の効果。構造材や内装材に木を多く使うことでシックハウスの心配がなくなります。木が発散するフィトンチッドという物質は、脳を活性化し、ストレスをやりわらげ、脱臭や抗菌効果もあると言われています。木は湿度調整機能があり熱が伝わりにくいため、表面に結露が起きにくい特徴があります。歩行の衝撃を吸収して体への負担を和らげ、柔らかな感触や香りは、心身を癒しリラックスさせてくれます。

